

6. 難病患者のためのレスパイト入院補助金事業に関する全国実態調査

研究分担者 菊池 仁志 村上華林堂病院
研究協力者 森 龍子(村上華林堂病院 地域連携室) 深川 知栄(同 看護部)
北野 晃祐(同 リハビリテーション科)
田代 博史(同 在宅診療部)、井上 賢一(同 神経内科)

研究要旨

本研究では、レスパイト入院の受け入れの促進を図ることを目的として、各都道府県に難病患者のレスパイト入院の受け入れに関する補助金給付の実態調査を行った。全国 47 都道府県のうち 31 都道府県で補助金給付を行っていた。主には、人工呼吸器装着患者で 1 日あたり 19000 円、14 日間の入院期間の設定であった。26 都道府県に事業実績があるものの都道府県でばらつきがみられた。今後難病患者のレスパイト入院を普及させるに当たっては、助成金の給付の格差の是正などに加え、医療機関の受け入れ態勢などを含めた総合的な支援が必要であると考えられる。

A. 研究目的

神経難病患者の在宅療養を長期的に支えていくためには、家族の救済や本人の病状管理のために短期入院を行うレスパイト入院は必要とされている。しかしながら、全国的には受け入れ病院は十分であるとは言えない状況にある。そこで、本研究では各都道府県における難病患者のレスパイト入院の受け入れに関する補助金給付の実態を把握することで、レスパイト入院の受け入れの促進を図る。

B. 研究方法

全国 47 都道府県の難病対策の担当部署にアンケート調査を行い、難病患者の一時入院(レスパイト入院)の受け入れに対する補助金給付の実態を把握する。アンケート内容は、在宅難病患者一時入院受け入れ医療機関への補助金給付の有無、要件、補助金額、実績などに関する回答を依頼。

(倫理面への配慮)

個人情報等に関しては、厳重に配慮するための規定を定め、村上華林堂病院倫理委員会の審査で承認を受けている。

C. 研究結果

全 47 都道府県より回答を得た。(回答率 100%) そのうち 31 都道府県で補助金給付を行っていた。適応要件は、人工呼吸器装着患者をしている都道府県が多く、22 施設が 1 日 19000 円の助成で、多

くは 14 日間の入院期間の設定であった。26 都道府県で事業実績があった。補助金給付制度のある都道府県からの意見としては、入院事業のばらつきによる公平性の不十分さ、財政的な支援のみならず、制度や施設など総合的な取り組みを検討する必要性などが挙げられていた。補助金給付制度のない地域では、多くの地域で財政面の不足が大きな問題であった。

D. 考察

全国的には、半数以上の都道府県でレスパイト入院に対する補助金助成制度を有していた。実績は都道府県でかなりばらつきはあり、その理由としては財源だけではなく受け入れ施設の問題や全体としての制度の不十分さなどが指摘されていた。また、レスパイト補助金 19000 円程度では、診療報酬算定に上乗せできないかぎり、経営上も厳しい現状があり、本来の目的であるレスパイト入院の普及にはつながらないと考えられる。今後難病患者のレスパイト入院を普及させるに当たっては、助成金の給付の格差の是正などに加え、医療機関の受け入れ態勢などを含めた総合的な支援が必要であると考えられる。

E. 結論

全国 47 都道府県のうち 31 都道府県で難病患者への一時入院補助金給付を行っていた。都道府県の補助金給付に関しては、ばらつきがあり、今後

は、助成金の給付の格差の是正などに加え、総合的な支援が必要であると考えられる。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Oki R, Izumi1, Nodera H, Sato Y, Nokihara H, Kanai K, Sonoo M, Urushitani M, Nishinaka K, Atsuta N, Kohara N, Shimizu T, Kikuchi H, et al. The Japanese Early-Stage Trial of High-Dose Methylcobalamin for Amyotrophic Lateral Sclerosis (JETALS): Protocol for a Randomized Controlled Trial 2. JMIR Res Protoc p1-8,2018

2. 学会発表

1) 菊池仁志. 神経難病患者の入院リハビリテーションと外来リハビリテーションの役割 第2回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会(シンポジウム)(11月3日 仙台市)

2) 山崎結、北野晃祐、菊池仁志. 当院系列サービス付き高齢者住宅入居中パーキンソン病患者に対する理学療法士の関わり. 第6回日本難病医療ネットワーク学会学術集会(2018年11月18日 岡山市)

3) 木村一喜, 岡久美, 江口梨香, 北野晃祐, 菊池仁志. 嚥下障害を呈した神経難病患者に対する嚥下・食事マニュアルを用いた指導の有効性の検証. 第6回日本難病医療ネットワーク学会学術集会(2018年11月18日 岡山市)

4) 柴田さおり, 山口良樹, 北野晃祐, 福島知子, 井島彩子, 北川佳郎, 米倉有希子, 菊池仁志. 脊髄小脳変性症・多系統萎縮症患者のADL経時的変化.

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定含む)

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし

難病患者のためのレスパイト入院補助金事業に関する全国実態調査

全国47都道府県の難病対策の担当部署に難病患者の一時入院(レスパイト入院)に関するアンケート調査施行。アンケート内容は、在宅難病患者一時入院受け入れ医療機関への補助金給付の有無、要件、補助金額、実績などに関する回答を依頼。



全47都道府県より回答。(回答率100%)
31都道府県で補助金給付あり。
適応要件は、人工呼吸器装着患者をしている都道府県が多く、22施設が1日19000円の助成で、多くは14日間の入院期間の設定。
26都道府県で事業実績があり。
補助金給付制度のある都道府県からの意見：入院事業のばらつきによる公平性の不十分さ、財政的な支援、制度や施設など総合的な取り組みを検討する必要性あり。
補助金19000円程度では、診療報酬算定に上乗せできないかぎりには、採算がとれないなど。
補助金給付制度のない地域の意見：財政面の不足が大きな問題など。



都道府県の補助金給付に関しては、ばらつきがあり、今後は、助成金の給付の格差の是正などに加え、総合的な支援が必要であると考えられる。